

## 再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

<b>事業名</b> 一般国道56号 <small>なかむらすくも</small> 中村宿毛道路	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 四国地方整備局
<b>起終点</b> 自：高知県 <small>しまんとしごつか</small> 四万十市古津賀 至：高知県 <small>すくもしわだ</small> 宿毛市和田	<b>延長</b> 23.2km	
<b>事業概要</b> 一般国道56号は、高知市を起点に四万十市、宿毛市、宇和島市、大洲市を經由して松山市に至る延長約320kmの主要幹線道路である。本路線は、高知県、愛媛県の産業経済活動を支える大動脈であるとともに、県民の生活基盤として重要な役割を果たしている。 一般国道56号中村宿毛道路は、自動車専用道路部と一般道路部からなり、四万十市～宿毛市間の円滑な交通確保と道路冠水等による交通遮断の解消、四万十市内の渋滞の解消を目的とする延長23.2kmの道路である。		
S51年度事業化	S50年度都市計画決定	S53年度用地着手
全体事業費	約1,320億円	事業進捗率
計画交通量	7,600～13,400 台/日	[現況+事業化済み箇所を考慮したネットワークによるもの]
<b>費用対効果分析結果</b> B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 1.2	<b>総費用</b> (残事業)/ (事業全体) 165/1,658億円 (事業費：142/1,607億円) (維持管理費：22/51億円)	<b>総便益</b> (残事業)/ (事業全体) 193/2,016億円 (走行時間短縮便益：180/1,811億円) (走行経費減少便益：4.6/144億円) (交通事故減少便益：8.6/61億円)
<b>感度分析の結果</b> (事業全体) 交通量：B/C=1.1～1.4 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.2～1.2 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.2～1.2 (事業期間 ±10%)		
<b>事業の効果等</b> ①円滑なモビリティの確保 ・現道等の時間損失の削減が見込まれる。 ・現道等の旅行速度が改善される。 ・現道等の路線バスの利便性や快適性の向上が見込まれる。 ・国見地区から中村駅（特急停車駅）までの所要時間の短縮が見込まれる。 ・宿毛市から高知龍馬空港（第二種空港）までの所要時間の短縮が見込まれる。 ②物流効率化の支援 ・四万十市から宿毛湾港（重要港湾）までの所要時間の短縮が見込まれる。 ・農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる。 ③国土・地域ネットワークの構築 ・高知県における四国8の字ネットワークの形成に寄与する。 ・新たに拠点都市間（高知市～宿毛市）を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する。 ・隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する。 ・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が期待される。 ④個性ある地域の形成 ・高知西南中核工業団地、宿毛湾港工業流通団地へのアクセス向上が期待される。 ・頑張る地方応援プログラム（四万十市、宿毛市）の展開を支援する。 ・主要な観光地（四万十川、足摺海底館、だるま夕日等）へのアクセス向上が期待される。 ⑤安全で安心できるくらしの確保 ・二次医療施設（幡多けんみん病院）へのアクセス向上が期待できる。 ⑥安全な生活環境の確保 ・平田交差点（778.5件/億台キロ）の安全性の向上が期待できる。 ⑦災害への備え ・第一次緊急輸送道路として信頼性が高く災害に強い道路ネットワークを形成する。 ・現道が冠水等により通行止めになった場合の代替路線を形成する。 ・A'路線として位置づけられており、並行する高速ネットワークの代替路線として機能する。		

⑧地球環境の保全

- ・CO2排出量の削減が見込まれる。

⑨生活環境の改善・保全

- ・NO2排出量の削減が見込まれる。
- ・SPM排出量の削減が見込まれる。

関係する地方公共団体等の意見

- ・平成20年度に一般国道56号バイパス建設促進期成同盟会等、平成22年度に四国西南地域市議会議長懇親会、平成23年度に四国横断自動車道高知県建設促進期成会より積極的な整備促進要望を受けている。

高知県知事の意見：

- ・事業継続に異議はありません。一般国道56号中村宿毛道路は、南海地震などの大規模災害時に、「命の道」となる四国8の字ネットワークを構成し、高知県西南地域の発展に重要な役割を果たす路線であることから、早期の供用を目指し、より一層の事業進捗をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

- ・「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成21年3月 須崎道路 L=4.6km 2車線 供用
- ・平成22年3月 宇和島道路（津島高田IC～宇和島南IC）L=7.8km 2車線供用
- ・平成23年3月 四国横断自動車道（中土佐IC～須崎西IC）L=7.0km 2車線供用

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・用地進捗率 平田IC～宿毛市和田は約75%、全体事業進捗率約84%となっている。（H22年度末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・未供用区間である平田IC～宿毛市和田（宿毛IC）区間では用地取得率が約75%となっており、早期供用に向け事業を推進。

施設の構造や工法の変更等

- ・今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理を考慮した構造の採用等、総コストの縮減に努めていく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の事業効果の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。